

まちづくりは行政だけではできない！ 地域運営組織には、若者の関わりが必要！

1. 現状

- 地域運営組織の中心は70歳以上の高齢者が多く、若者の参加は少ない。→ **世代交代ができない**
- 活動がマンネリ化し、やらされ感が強くなっている。→ **モチベーションの低下**
- 活動に参加している人が固定化している。→ **活動が広がらない**
- 目的が曖昧になっている。→ **一体感不足**

若者が関わりたいと
思うのか！？

2. 視察で学んだこと

きらりよしじまネットワーク （山形県川西町）

**** 特徴 ****

**幼少期から青年期へ、経年的に
地域に関わるシステム**

- 年齢に応じた事業を開催。企画運営は子ども時代に事業に参加した若者が実施。
- 子ども達は日常的に地域で活躍する大人を見て育っている。
- 地域を離れた若者にもアプローチ。帰省したいと思える地域づくり。

燕市役所 （新潟県燕市）

**** 特徴 ****

**型にはめない自由な発想で地域
を活性化。若者が集うまちづくり**

- 若者主体で企画運営。特産物を生かしたスイーツづくりなどのアイデアを事業として実現。
- 事務局は若者の感覚やペースを柔軟に受け入れ。計画性のない行きあたりばったりの企画もある。
- 若者が主体的に地域に関わりモチベーションは向上。

東北芸術工科大学 （山形県山形市）

**** 特徴 ****

専門性の高い「コミュニティデザイナー」を養成

- ボランティア色の強いコミュニティデザイナー（地域のコーディネーター）を職業とできるような専門教育を実施。
- 全国の地域づくり活動のコンサルティングとして活躍の場を徐々に広げつつある。

3. 提言

子ども、若者へアプローチ

- 「リーダーを養成する塾」の開催
- 卒業後の活動を企画→継続的アプローチ

「対話」の場づくりの推進

- ファシリテーター研修の実施
- 住民の主体的活動のサポート

学生にアプローチ（関係人口増）

- 近隣高校、大学との連携
- 地域活動を授業、クラブとして取り入れる

